

令和7年度の研究（または活動）内容

生活環境と一体となった歴史的建造物や古い町並みといった身近な地域文化財や伝統文化は、長い年月をかけて地域で醸成された持続可能な「伝統知」を備える。よって、地域文化財には、単なる歴史的遺産としての価値にとどまらず、未来の地域のあり方の参照となりうる「持続可能な地域づくり」のヒントが秘められている。本プロジェクト研究所は建築史、地域防災、環境保全、映像学、歴史資料学といった、人文学と建築学、環境学にまたがる異分野融合と地域連携を重視し、「文化財の価値を守り、未来へ伝え、持続可能な地域づくりへ活かす」という複合新領域の形成を目指すものである。令和7年度の研究活動について、特色のあるものを以下で立項する

1)「文庫蔵」の文化的価値と収蔵環境に関する文理融合研究

令和6年度に、学内公募研究として「人文学と建築史、環境工学が連携した伝統的な文庫蔵の記録化と文化財保存環境の評価」が採択された。この文化財に関わる文理融合型研究を、今年度は財団法人・住総研へ研究助成を申請し、採択を受けて、継続して研究を進めた。家財道具や史料、身近な生活資料を収蔵する「文庫蔵」の文理融合型研究であり、収納空間の伝統的作法を継承する歴史的建造物を事例とし、資料ジャンルやその空間特性といった人文学・建築史的知見と、各空間のデータロガー実測による温湿度測定（文化財保存環境の評価）を統合し、土蔵の保存環境に関する「伝統知」を抽出するものである。収蔵資料の写真撮影の工夫により、「蔵が語る家や地域の物語」の提示や文化財活用へとつなげる。

また今年度、学内公募研究の成果を、文庫蔵の所有者および地域の方々に情報共有するために、報告会を9月18日に研究対象である登米市登米町の海老喜ホールで開催した。建築学科・中村教授が研究全体の概要を説明し、建築学科・大石准教授から、伝統的な文庫蔵がもつ極めて安定的な文化財保存環境を、温湿度の実測成果から報告し、河内講師は文庫蔵に収蔵された歴史資料がもつ価値をコメントされた。また、文庫蔵の今後の活用の方策について、建築学科・大石研究室と中村研究室の学生たちから、リサーチに基づき参考事例や活用アイデアの知見が報告された。

東北工業大学 地域連携プロジェクト研究 一般財団法人 佐藤研二の五十年所蔵研究 支援助成

文庫蔵が物語る住文化の幾世代もの伝承



東北工業大学では、建築化学、建築工学、地域文化が連携し、貴重な家財を収蔵する、宮城県登米市登米町「みやぎの町山村」に所在する登録有形文化財「青森家文庫蔵」の文理聯合型研究を2024年度から進めています。その中間報告会を開催します。

日時：2025年9月18日（木）13:30～15:00
場 所：登録有形文化財「青森家文庫」(旧盛治社旧蔵)

内 容：1. 文庫蔵の収蔵品の概要とその価値
中村康巳（東北工業大学 建築学部、文化財修復・建築史学）
2. 伝統的な文庫蔵の温度湿度管理
大石洋之（東北工業大学 建築学部、建築障壁工学）
3. 伝統的な「籠」の活用事例
東北工業大学 建築学部 学舎発祥
4. コメント
河内陽子（東北工業大学 総合教育センター、地域文化史）
5. 意見交換

参加申込 - 問合せ - 東北工業大学 建築史研究室
(中村研二) Tel 022-325-3811, takami@hibi-tech.ac.jp

未来のユネスコを創る。
東北工業大学

調査成果報告会のチラシ



蔵の活用に関する学生プレゼンテーションの様子

2) 文化財修復と自然環境保全をつなぐ SDGs プログラム

文化財修復を専門とする建築学科・中村研究室と、自然環境保全、特に北上川のヨシ原(文化財の茅葺き建造物の修理用材を供給する)の環境学的研究を進める環境応用化学課程・山田研究室が合同して、今年度も北上川河口域のヨシ原において茅刈りの実習を行った。この茅刈り実習は毎年、恒例の行事として昨年度も実施しており、その際に刈り取った茅を、2025年9月に「ほうきづくり」ワークショップとしても弘前市公開武家住宅で活用した。これは建築学科・中村研究室が保存修景事業に協力している青森県弘前市・仲町伝統的建造物群保存地区でのワークショップで、茅葺き文化財の文化財保存と自然環境保全にまたがる多彩な価値を、地域の方々に知ってもらおう活動である。

3) 自治体と連携した文化財保存・修復の支援活動

自治体と連携した文化財保存・修復の今年度の支援事業は、青森県弘前市、岩手県一戸町、北上市、陸前高田市、奥州市、一関市、宮城県登米市、涌谷町、塩竈市、蔵王町、角田市、福島県白河市と多岐にわたった。このなかでも、建築学科・中村研究室では東日本大震災で流出・全壊した岩手県指定文化財・旧吉田家住宅の復旧活動を継続的に支援しており、2025年5月に復旧工事完了、一般公開がはじまった。震災前の学術資料に基づき、被災前の町並みの復元立面パネルの制作、震災前の屋敷構えを伝える模型制作などを進めた。これに加えて、一般公開後の2025年9月20日には、科学研究費ひらめき☆ときめきサイエンスの助成を受けて「気仙大工の歴史やデザインを学び、伝統の建築技術と大工道具を体験しよう！」を旧吉田家住宅および気仙大工左官伝承館で実施し、研究成果を中高生にわかりやすく伝えるアウトリーチ活動も実施した。



独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費助成事業
「ひらめきとときめきサイエンス—ようこそ大学の研究室へ—」
**気仙大工の歴史やデザインを学び、
伝統の建築技術と大工道具を体験しよう！**

2025 9/20 (土) 中学生・高校生 対象

講 師 東北工業大学 建築学専攻 教授 中村 雄巳
竹中大工道具館 館長 久保 正幸

開催場所 陸前高田指定有形文化財 田吉田家住宅主屋
(陸前高田市気仙町裏 200-7)
気仙大工本匠 伝承館
(陸前高田市小友町若南 1-237)

定員・申込 中学生・高校生 各15名
(保護者様も見学可)
参加料：事前申込が必要

この QR コードの web から
申込ください。
<https://www.kei/niranki>

※日本学術振興会 奨励
13:00 陸前高田指定有形文化財 田吉田家住宅主屋 集合
講師から陸前高田指定有形文化財の歴史や、レクチャー
竹中大工道具館の歴史・活動
陸前高田指定有形文化財の歴史や、田吉田家住宅主屋の
歴史、建築技術や大工道具について学びます。

※15:00 閉会 (陸前高田指定有形文化財 田吉田家住宅主屋)
大工道具の展示・実演と体験会 (陸前高田指定有形文化財 田吉田家住宅主屋)
大工道具の展示・実演と体験会 (陸前高田指定有形文化財 田吉田家住宅主屋)

※このイベントより、11:30「アットせせあし」駐車場集合で、
陸前高田指定有形文化財「アットせせあし」で移動します。申込の
際、詳細は必ずご確認ください。

※このイベントより、気仙大工本匠 伝承館の閉館後、マイナビロ
ボスで「アットせせあし」駐車場へ移動します。

主催 東北工業大学
協賛 陸前高田指定有形文化財 田吉田家住宅主屋
公認財団法人 竹中大工道具館
協賛先 東北工業大学 建築学専攻 中村教授 (Tel. 022-315-3011)




中高生アウトリーチのチラシ



陸前高田市における建築技術・大工道具の体験事業